

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇札幌市の共通指標の「自ら学ぶ方法」、「人と学ぶ合う方法」の項目が平均より高く、校内研修会などを通して授業改善に取り組んできた成果があった。</p> <p>◇「分からないことがあったときに、友達や先生にきくようにしている」の項目が札幌市より7.5%高く、授業の中で教え合う活動を取り入れている成果があった。</p> <p>◇学校評価アンケートから、「授業では、見通しをもって主体的に取り組むことができるように進められている」に対する肯定的な回答が93.9%で高い。</p>
	<p>◇札幌市の共通指標から、「自分で計画を立てて勉強している」割合が昨年度より1.8%減り55.3%と低いのが課題。</p> <p>◇ICTの活用アンケートの、「授業以外で端末を使うときは、時間が長くないよう、使う時間の長さを自分で決めている。」の割合が54.3%と低く、上記と同様に、家庭でICTを使用するときの時間の使い方に課題がある。</p> <p>◇学校目標である、「失敗を恐れずに勇気をもって挑戦する」を、生徒が意識して取り組めるように工夫していくことが課題である。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇札幌市の共通指標の「人のよいところを見付けようとしている」、「人の役に立つ人間になりたい」は90%より高く肯定的意見が多かった。「自分によいところがある」は昨年度より増加傾向がある。総合的な学習の時間での生き方を考える授業や道徳などで、他人の意見を聞く場面や相互評価の場を設定していることが寄与していると考えられる。一方で、「自分が必要とされていると感じる」は昨年度より高くなっているが、依然として77.2%と低く、自分の意見に自信のない生徒がいることが考えられる。引き続き自分に自信をもって取り組み、自己肯定感、自己有用感を高めるような教育活動を進めていく。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自ら学びに向かう生徒の育成

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究副主題「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両面からの授業改善をする機会を設定する。</p> <p>(2) 単元内に、単元の学習課題の解決に向けて、<u>自分の学習の見通しを立てたり、探求の方法を検討したりする場を意図的に位置付ける。</u></p> <p>(3) 各教科で AAR サイクルを意識して、1年間の中でどこかの単元で授業計画を立てる。 →校内研修会で成果を発表する場を設ける。</p>	<p>①自分たちの生活を振り返る場の設定 →生活専門委員会を中心とした毎月のリフレクション</p> <p>②よりよい学級・学年にするための活動 →<u>代表・議長を中心とした学年の様々な課題を議題にした取組</u></p> <p>③異学年交流、小中連携を意識した取組 →文化的行事などで「北野台のよさ」を発表 →<u>中学生から小学生への学校紹介の場面・小中挨拶運動など</u></p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇主に(2)について、jeminiを用いたAIソフトを作り使用したり、3Dプリンタソフトを活用したりするなど、ICTを使用した課題探究的な学習に取り組んでいく。</p> <p>◇主に②、③について、生徒総会などでGoogleformを利用したり、立会演説会でCanvaでポスター、小中連携でスライドを使って説明をするなど行うなど、生徒同士や小学校と連携できるようにする。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>



